

令和6年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名： 富山県立大学

代表学生： 沼澤 蓮音

指導教員： 呉 修一

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>地震・津波・洪水に強い地域づくりに向けて～地区防災プログラムの開発・実装と展開～（A：自由研究部門、F：まちづくり研究分野）</p>
<p>研究概要</p>	<p>令和6年能登半島地震では、北陸で甚大な地震・津波被害が生じた。令和5年には小矢部川で既往最大洪水が生じるなど豪雨災害も頻発している。地震時の津波避難では車による避難渋滞で混乱が生じるなど、安全安心と思われていた富山でも今後しっかりと災害に備える必要がある。よって、本フィールドワークは、富山市などを対象に、地区防災教室を展開する。防災教室では、地震対策、防災街歩き、ハザードマップの確認、災害時のマイタイムラインの作成などに取り組む。従来から実施している洪水・津波被害調査結果や最先端シミュレーションでリスクの見える化を行い、地震・水害時にどのような対応が富山で必要かを整理・提案する。</p>
<p>これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>現在までに、津波、洪水災害に関する、第一回富山水災害セミナーを開催し、第二回を来年1月に開催予定である。また、富山市の町内会を対象とした地区防災セミナーを連続開催中である。この活動の成果や素材を他の地区に伝搬させるために、第二回の水災害セミナーでの周知やHPでの地区募集を強化していく予定である。</p> <p>洪水の数値計算および津波計算や現地調査を精力的に実施しており、今後の富山の水害リスクの見える化を通じた避難地区計画の策定も検討中である。更に、津波や洪水を対象とした避難に関するアンケートを実施中であり、これらより得られた知見を地区防災計画に反映させるための活動を今後行っていく予定である。</p>
<p>当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。</p>	<p>当初はアンケートの予定はなかったが、住民の意識や避難状況を正確に把握するために実施している。また、能登半島豪雨の知見も取り入れるため能登の調査も実施している。</p>

写真1：地区防災教室の板書の様子

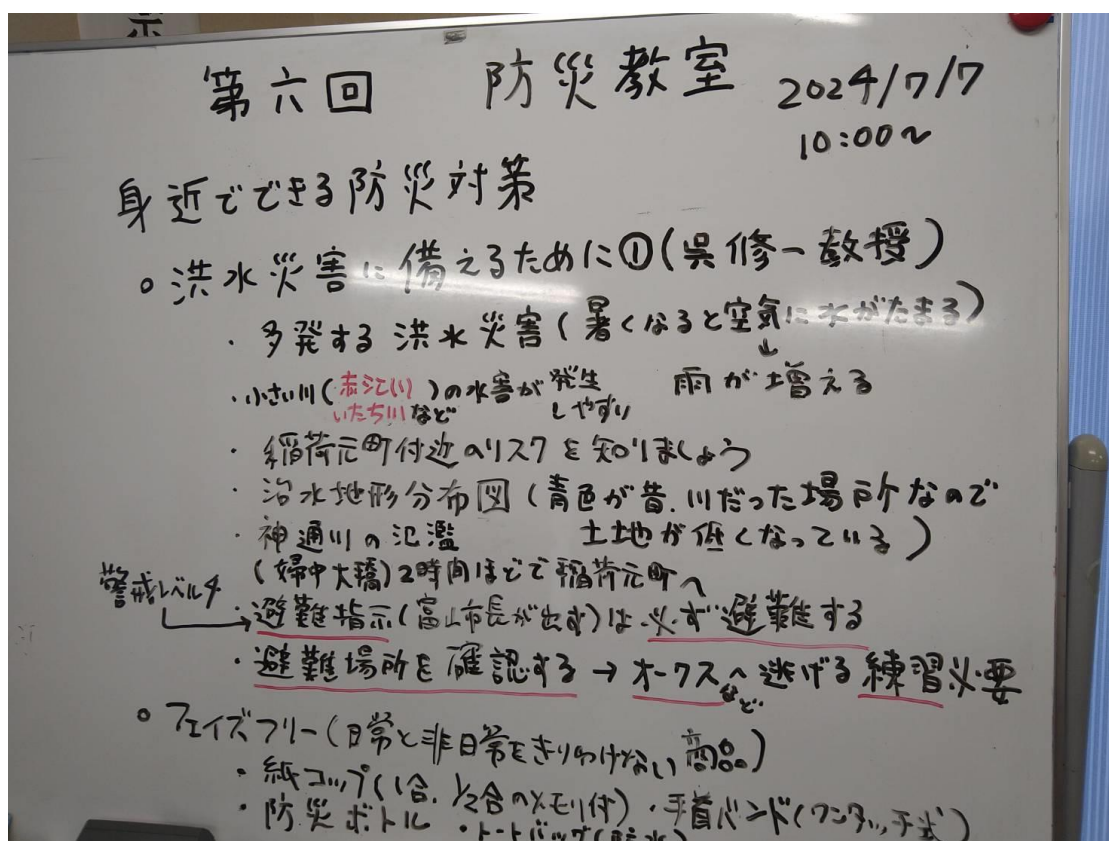


写真2：能登半島豪雨災害現地調査の様子



写真3：実施したアンケート調査の概要

## 紙アンケート調査

### アンケート調査の概要

期間：6月下旬～7月上旬

対象：氷見市・高岡市・射水市・富山市・滑川市  
魚津市・黒部市・入善町・朝日町

における **沿岸部から300m程度以内の居住地区**

数：計3800通（各市町で約400通）をポスティング

